

Ⅲ. 資料

県内博物館・美術館・資料館一覧

県内公共図書館一覧

用語集

掲載文化財一覧（五十音順）

文化財体系図

県内博物館・美術館・資料館一覧

沖縄石の文化博物館

📍 905-1422 国頭村宜名真1241 📞 0980-41-8117 FAX 0980-41-8276

東村立山と水の生活博物館

📍 905-1203 東村字川田61-1 📞 0980-51-2828 FAX 0980-51-2828

伊平屋村歴史民俗資料館

📍 905-0703 伊平屋村字我喜屋217-27 📞 0980-46-2384 FAX 0980-46-2832

伊是名村ふれあい民俗館

📍 905-0603 伊是名村字伊是名196-129 📞 0980-45-2165 FAX 0980-45-2144

島村屋観光公園民俗資料館

📍 905-0505 伊江村字西江上17 📞 0980-49-2422 FAX 0980-49-2422

ヌチドゥタカラの家 反戦平和資料館

📍 905-0502 伊江村字東江前2300-4 📞 0980-49-3047 FAX 0980-49-5834

今帰仁村歴史文化センター

📍 905-0428 今帰仁村字今泊5110 📞 0980-56-5767 FAX 0980-56-2789

本部町立博物館

📍 905-0212 本部町字大浜874-1 📞 0980-47-5217 FAX 0980-47-3081

沖縄美ら海水族館

📍 905-0206 本部町字石川888 📞 0980-48-3748 FAX 0980-48-3900

名護博物館

📍 905-0021 名護市東江1-8-11 📞 0980-53-1342 FAX 0980-53-1362

沖縄愛楽園交流会館

📍 905-1635 名護市字済井出1192 📞 0980-52-8331

宜野座村立博物館

📍 904-1302 宜野座村字宜野座232 📞 098-968-4378 FAX 098-968-5030

琉球村

📍 904-0416 恩納村字山田1130 📞 098-965-1234 FAX 098-964-3411

恩納村博物館

📍 904-0415 恩納村字仲泊1656-8 📞 098-982-5112 FAX 098-982-5115

うるま市立石川歴史民俗資料館

📍 904-1107 うるま市石川曙2-1-55(石川図書館2階) 📞 098-965-3866 FAX 098-965-3866

うるま市立与那城歴史民俗資料館

☎ 904-2305 うるま市与那城中央1 ☎ 098-978-3149 FAX 098-978-8747

うるま市立海の文化資料館

☎ 904-2427 うるま市与那城屋平4(2F) ☎ 098-978-8831 FAX 098-978-8841

世界遺産座喜味城跡ユンタンザミュージアム

☎ 904-0301 読谷村字座喜味708-6 ☎ 098-958-3141

諸見民芸館

☎ 904-0032 沖縄市諸見里3-11-10 ☎ 098-932-0028

沖縄市立郷土博物館

☎ 904-0031 沖縄市上地2-19-6 ☎ 098-932-6882 FAX 098-933-6218

エイサー会館

☎ 904-0031 沖縄市上地1丁目1番1号 ☎ 098-989-5066

沖縄こどもの国

☎ 904-0021 沖縄市胡屋5-7-1 ☎ 098-933-4190 FAX 098-932-1634

東南植物楽園

☎ 904-2143 沖縄市知花2146 ☎ 098-939-2555 FAX 098-939-2564

国指定重要文化財・中村家住宅

☎ 901-2314 北中城村字大城106 ☎ 098-935-3500 FAX 098-935-3500

中城村護佐丸歴史資料図書館

☎ 901-2407 中城村字安里215 ☎ 098-895-5302 FAX 098-895-5353

琉球大学博物館(風樹館)

☎ 903-0213 西原町字千原1 ☎ 098-895-8841 FAX 098-895-8841

沖縄県立埋蔵文化財センター

☎ 903-0125 西原町字上原193-7 ☎ 098-835-8751 FAX 098-835-8754

宜野湾市立博物館

☎ 901-2224 宜野湾市真志喜1-25-1 ☎ 098-870-9317 FAX 098-870-9316

佐喜眞美術館

☎ 901-2204 宜野湾市上原358 ☎ 098-893-5737 FAX 098-893-6948

浦添市美術館

☎ 901-2103 浦添市仲間1-9-2 ☎ 098-879-3219 FAX 098-878-1221

国立劇場おきなわ

📍 901-2122 浦添市勢理客4-14-1 📞 098-871-3111 FAX 098-871-3321

首里城公園

📍 903-0815 那覇市首里金城町1-2 📞 098-886-2020 FAX 098-886-2022

対馬丸記念館

📍 901-0031 那覇市若狭1-25-37 📞 098-941-3515 FAX 098-863-3683

那覇市立壺屋焼物博物館

📍 902-0065 那覇市壺屋1-9-32 📞 098-862-3761 FAX 098-862-3762

那覇市歴史博物館

📍 900-0015 那覇市久茂地1-1-1 パレットくもじ4F 📞 098-869-5266 FAX 098-869-5267

沖縄県立博物館・美術館

📍 900-0006 那覇市おもろまち3-1-1 📞 098-941-8200 FAX 098-941-2392

沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館

📍 903-8602 那覇市首里当蔵町1-4 📞 098-882-5038 FAX 098-882-5068

南風原町立南風原文化センター

📍 901-1113 南風原町字喜屋武257 📞 098-889-7399 FAX 098-889-0529

旧海軍司令部壕

📍 901-0241 豊見城市字豊見城236 📞 098-850-4055 FAX 098-850-9342

豊見城市歴史民俗資料展示室

📍 901-0232 豊見城市字伊良波392 📞 098-856-3671 FAX 098-856-1215

八重瀬町立具志頭歴史民俗資料館

📍 901-0512 八重瀬町字具志頭352 📞 098-835-7500 FAX 098-835-7501

沖縄鍾乳洞協会 沖縄自然遊学資料館

📍 901-0416 八重瀬町字宜次231-104 📞 098-998-2383 FAX 098-998-2383

おきなわワールド文化王国・玉泉洞

📍 901-0616 南城市玉城字前川1336 📞 098-949-7421 FAX 098-949-7100

沖縄県平和祈念資料館

📍 901-0333 糸満市字摩文仁614番地の1 📞 098-997-3844 FAX 098-997-3947

ひめゆり平和祈念資料館

📍 901-0344 糸満市字伊原671-1 📞 098-997-2100 FAX 098-997-2102

沖縄平和祈念堂

📍 901-0333 糸満市字摩文仁448-2 📞 098-997-3011 FAX 098-997-2678

久米島博物館

📍 901-3121 久米島町字嘉手刈542 📞 098-896-7181 FAX 098-896-7182

南大東村立ふるさと文化センター

📍 901-3805 南大東村字在所317 📞 09802-2-2815

宮古島市総合博物館

📍 906-0011 宮古島市平良東仲宗根添1168-287 📞 0980-73-0567 FAX 0980-73-0822

多良間村ふるさと民俗学習館

📍 906-0601 多良間村字仲筋1098-1 📞 0980-79-2223 FAX 0980-79-2223

南嶋民俗資料館

📍 907-0022 石垣市字大川188 📞 0980-82-1312 FAX 0980-82-1312

石垣やいま村

📍 907-0021 石垣市名蔵967-1 📞 0980-82-8798 FAX 0980-83-4620

石垣市立八重山博物館

📍 907-0004 石垣市登野城4-1 📞 0980-82-4712 FAX 0980-82-4716

みんさー工芸館

📍 907-0004 石垣市登野城909 📞 0980-82-3473 FAX 0980-83-4066

喜宝院蒐集館

📍 907-1101 竹富町字竹富108 FAX 0980-85-2424

ギモンをもったら行ってみよう！

県内公共図書館一覧

沖縄県立図書館

〒900-0021 那覇市泉崎1丁目20-1 カフーナ旭橋A街区内 ☎098-894-5858 FAX 098-861-7111

開館時間 9:00～20:00

休館日 火

那覇市立中央図書館

〒902-0064 那覇市寄宮1丁目2-15 ☎098-917-3449 FAX 098-835-2158

開館時間 9:30～19:00(土日～18:00)

休館日 月・第3水・祝日(文化の日除く)・慰霊の日

那覇市立小禄南図書館

〒901-0145 那覇市高良2丁目7-1 ☎098-917-3451 FAX 098-857-2986

開館時間 9:30～19:00(土～18:00、日～17:00)

休館日 月・第3水・祝日(文化の日除く)・慰霊の日

那覇市立首里図書館

〒903-0812 那覇市首里当蔵町2丁目8-2 ☎098-917-3452 FAX 098-885-9247

開館時間 9:30～19:00(土～18:00、日～17:00)

休館日 金・第3水・祝日(文化の日除く)・慰霊の日

那覇市立若狭図書館

〒900-0031 那覇市若狭2丁目12-1 ☎098-917-3453 FAX 098-860-1246

開館時間 9:30～19:00(土～18:00、日～17:00)

休館日 月・第3水・祝日(文化の日除く)・慰霊の日

那覇市立石嶺図書館

〒903-0804 那覇市首里石嶺町2丁目70-9 ☎098-917-3454 FAX 098-885-9625

開館時間 9:30～19:00(土～18:00、日～17:00)

休館日 月・第3水・祝日(文化の日除く)・慰霊の日

那覇市立繁多川図書館

〒902-0071 那覇市繁多川4-1-38 ☎098-917-3455 FAX 098-853-6010

開館時間 9:30～19:00(土日～18:00)

休館日 金・第3水・祝日(文化の日除く)・慰霊の日

那覇市立牧志駅前ほしぞら図書館

〒902-0067 那覇市安里2-1-1 3階 ☎098-917-3450 FAX 098-866-9243

開館時間 9:30～19:00(土～18:00、日～17:00)

休館日 金・第3水・祝日(文化の日除く)・慰霊の日

宜野湾市民図書館

〒901-2214 宜野湾市我如古3丁目4-10 ☎098-897-4646 FAX 098-897-5642

開館時間 10:00～19:00(月～17:00)

休館日 火・第4木・祝日(文化の日除く)・慰霊の日

石垣市立図書館

〒907-0013 石垣市浜崎町1丁目1 ☎0980-83-3862 FAX 0980-83-1645

開館時間 10:00～19:00(土日～17:00)

休館日 月・第4金・祝日(こどもの日除く)・慰霊の日

浦添市立図書館

〒901-2114 浦添市安波茶2丁目2-1 ☎098-876-4946 FAX 098-875-1772

開館時間 9:30～19:00

休館日 月・祝日(こどもの日、文化の日除く)・慰霊の日・月末平日(7、8、2月除く)

名護市立中央図書館

〒905-0011 名護市宮里5丁目6-1 ☎0980-53-7246 FAX 0980-52-2607

開館時間 9:00～19:00

休館日 月(祝日のときは開館。別日振替)・第4木

糸満市立中央図書館

〒901-0362 糸満市字真栄里1448 ☎098-995-3746 FAX 098-992-5778

開館時間 10:00～19:00

休館日 月・第2金・祝日・慰霊の日

沖縄市立図書館

〒904-0004 沖縄市中央2丁目28-1 ☎098-929-4919 FAX 098-923-0312

開館時間 9:30～20:00(土日・文化の日～18:00)

休館日 月・第4木・祝日(文化の日除く)・慰霊の日

豊見城市立中央図書館

〒901-0232 豊見城市字伊良波392 ☎098-856-6006 FAX 098-856-8044

開館時間 10:00～19:00

休館日 月・月1回館内整理日・祝日(こどもの日、文化の日除く)・慰霊の日

うるま市立中央図書館

〒904-2221 うるま市字平良川128 ☎098-974-1112 FAX 098-974-3505

開館時間 10:00～19:00(土日～17:00)

休館日 月・第4木(9月・3月を除く)・祝日・慰霊の日・3月末日

うるま市立石川図書館

〒904-1107 うるま市石川曙2丁目1-55 ☎098-964-5166 FAX 098-964-5608

開館時間 10:00～19:00(土日～17:00)

休館日 月・第4木(9月・3月を除く)・祝日・慰霊の日・3月末日

うるま市立勝連図書館

〒904-2312 うるま市勝連平安名3047 ☎098-978-4321 FAX 098-978-4075

開館時間 10:00～18:00(土日～17:00)

休館日 月・第4木(9月・3月を除く)・祝日・慰霊の日・3月末日

宮古島市立図書館

〒906-0007 宮古島市平良字東仲宗根807 ☎0980-72-2235 FAX 0980-73-1136

開館時間 10:00～19:00(土～18:00、日～17:30 ※児童室除く)

休館日 月・第3木・祝日・慰霊の日

宮古島市立図書館 城辺分館

〒906-0103 宮古島市城辺字福里377-1 ☎0980-77-8813 FAX 0980-77-8813

開館時間 10:00～18:00(日～17:00)

休館日 月・第3木・祝日・慰霊の日

南城市立知念図書館

〒901-1511 南城市知念字久手堅22 ☎098-917-5310

開館時間 9:00～18:00(土日9:00～17:00)

休館日 火・第4木・祝日・慰霊の日

南城市立図書館 佐敷分館

〒901-1403 南城市佐敷字佐敷307 ☎098-917-5543* FAX 098-947-0099*

開館時間 9:00～18:00(土日9:00～17:00)

休館日 月・第3木・祝日・慰霊の日

南城市立図書館 玉城分館

〒901-0611 南城市玉城字富里167 ☎098-917-5408 FAX 098-948-7335*

開館時間 9:00～18:00(土日9:00～17:00)

休館日 月・第3木・祝日・慰霊の日

南城市立図書館 大里分館

〒901-1206 南城市大里字仲間928 大里農村改善センター1F ☎098-917-5332

開館時間 9:00～18:00(土日9:00～17:00)

休館日 火・第4木・祝日・慰霊の日

今帰仁村立図書館

〒905-0411 今帰仁村字天底91 ☎0980-56-3898 FAX 0980-56-3898

開館時間 11:00～19:00

休館日 月・第3金・祝日・慰霊の日

本部町立図書館

〒905-0212 本部町字大浜874-1 ☎0980-47-2105 FAX 0980-47-3081

開館時間 9:00～18:00(土日9:00～17:00)

休館日 月・第4金・祝日・慰霊の日

恩納村文化情報センター

〒904-0415 恩納村字仲泊1656番地8 ☎098-982-5432 FAX 098-982-5463

開館時間 10:00～19:00(土日祝～17:00)

休館日 月(祝日のときは開館)・第3木・祝日の翌日・6/24

宜野座村文化センター図書館

〒904-1302 宜野座村字宜野座314-1 ☎098-983-2611 FAX 098-983-2600

開館時間 10:00～19:00(土日祝～17:00)

休館日 火・第4木・慰霊の日

金武町立図書館

〒904-1201 金武町字金武1827 ☎098-968-5004 FAX 098-968-5032

開館時間 10:00～19:00(土日～17:00)

休館日 月・第3木・祝日・慰霊の日

読谷村立図書館

〒904-0322 読谷村字波平37 ☎098-958-3113

開館時間 10:00～19:00(土日～17:00)

休館日 火・第4木・祝日・慰霊の日

嘉手納町立図書館

〒904-0203 嘉手納町字嘉手納290-9 ロータリープラザ4F ☎098-957-2470 FAX 098-957-4566

開館時間 9:00～20:00(土日10:00～18:00)

休館日 月・第4木・祝日・慰霊の日

北谷町立図書館

〒904-0103 北谷町字桑江467-1 ☎098-936-3542 FAX 098-936-4567

開館時間 9:00～20:00(土日～17:00)

休館日 月・第4木・祝日・慰霊の日

北中城村あやかりの杜図書館

〒901-2311 北中城村字喜舎場1214 ☎098-983-8060 FAX 098-983-8090

開館時間 10:00～20:00(土日祝9:00～17:00)

休館日 月・第1水・慰霊の日

中城村護佐丸歴史資料図書館

〒901-2407 中城村字安里215 ☎098-895-5302 FAX 098-895-5353

開館時間 10:00～19:00(土日10:00～17:00)

休館日 火・第3木・祝日の翌平日・慰霊の日

西原町立図書館

〒903-0111 西原町字与那城152-5 ☎098-944-4996 FAX 098-944-4997

開館時間 10:00～19:00(土日～17:00)

休館日 月・第3木・祝日(文化の日除く)・慰霊の日

与那原町立図書館

〒901-1303 与那原町字与那原712 ☎098-946-6959 FAX 098-946-6970

開館時間 10:00～19:00(土日～17:00)

休館日 月・第4金・祝日・慰霊の日

南風原町立図書館

〒901-1113 南風原町字喜屋武236番地 ☎098-889-6400 FAX 098-888-3265

開館時間 10:00～19:00(土日～17:00)

休館日 火・第4木・祝日・慰霊の日

多良間村立図書館

〒906-0601 多良間村字塩川165 ☎0980-79-2555 FAX 0980-79-2555

開館時間 9:30～18:00(土日～17:00)

休館日 月・祝日・慰霊の日

※令和2年度沖縄県立図書館要覧より抜粋。

※休館日は、年末年始・特別整理期間を除きます。

※休館・開館時間等については変更がある場合もありますので、ご了承下さい。

※電話番号・FAX番号の※印は、他の施設と共用となっています。

工芸技術の用語集

【あ行】

藍建てあいにだ

藍染めで、水に溶けない藍の色素をアルカリ溶液で還元させ、水に溶けるようにし、染色できる状態にすること。

浮織うきおり

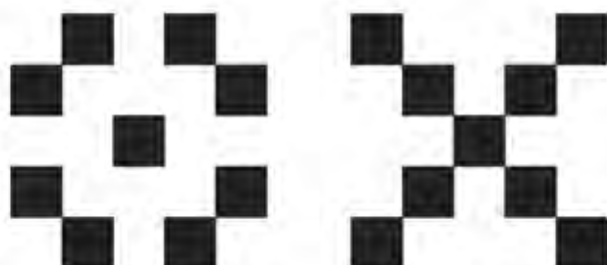
経糸か緯糸、あるいは両方の糸を一部浮かせて織ることで模様を出す織り方。

畝織うねおり

織り方に変化をつけることで、畑の畝のような凹凸の模様を織り出した織物。あるいは、その織り方。

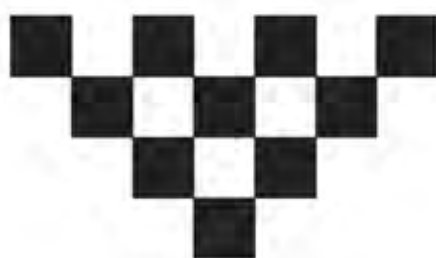
縁起の良い模様えんぎのよいもよう

豊かさを願い、お金を形どった「ジンバナ(銭花)」、長寿を願った「カジマヤー(風車)」、末広がりをあらわした「オージバナ(扇花)」などがある。



カジマヤー (風車)

ジンバナ (銭花)



オージバナ (扇花)

おもろさうし

沖縄最古の歌謡集。おもろとは奄美・沖縄諸島に伝わる古い歌謡のことで、およそ12世紀から17世紀頃にわたって各地で歌われた。

首里王府がこれを編集したもので、全22巻からなり、1554首が収録されている。沖縄の歴史・文学研究の基本文献。

織り杼おりのひ

織機の道具の1つで小管に巻いた緯糸をセットし、経糸の間を通して生地組織を組み合わせていくもの。

【か行】

拵括りかまひく

模様にした部分糸の段階であらかじめ保護し、白く染め残す方法。

型染かたぞめ

型紙を使う染め物。型抜き模様部分に刷毛などで染料を直接つける方法と、びん型のように、模様部分に糊をつけてから地を染める方法がある。

かりはおとろ 仮箄通し

箄とは機の部品の1つで、緯糸を経糸に打ち込む働きをする。綜絢に経糸を通す前に、箄に経糸を通すことを仮箄通しという。綜絢に経糸を通したあと、織物の幅や組織の密度に合わせて経糸を箄に通す本通しをする。

がんりょう 顔料

着色するための色材で鉱物、土、虫や貝などから作る。水に溶けないので、膠や豆汁などを接着剤にして使う。

ひんじょう 群青

青色系の顔料。

【さ行】

サルトリイバラ(グール)

日本全土、中国、台湾、フィリピン、インドシナ半島に分布し、山野に多く自生するつる性の落葉樹。木にからんで3mぐらいに生長する。茎はかたくてまばらにトゲがある。石垣島のサルトリイバラは、本州のものに比べて葉も細長く少し小型となっている。サルトリイバラを染料として用いる場合は、根の固まりを細かく刻んで水に入れて沸騰させる。茶や焦げ茶の色が染まる。

じそうこう 地綜絢

地の反物を織り出すための綜絢。

しよがみ 渋紙

はり重ねた和紙に、柿などを発酵させて作った渋を塗って乾かしたもの。渋に含まれるタンニンの効果によって、強度と防水性を増す。

しやみり 紗織

経糸を緯糸に撚(から)ませて織る撚織(からみおり)だけで織る技法。

しよぼく 朱墨

朱と墨。朱は赤色系の顔料。墨は黒色の材料で、木や油を燃やして煤を集め、膠や香料などで練り固めたもの。またこれを硯で水とともに磨りおろして作った液体。

しよくぶつせんりょう 植物染料

植物を原料とする染料のこと。染料とは、水など特定の液体に溶かしてから使う色材。沖縄では琉球藍を筆頭に、サルトリイバラ(グール)、ヤマモモ(ムムギー)、ソメモノイモ(クール)、フクギなどの植物染料がある。

洲鎌与人^{すずりまんとり}

16世紀末の宮古島の人物、下地親雲上真栄とも記録される。洲鎌与人の記録によると、洲鎌与人は王府の進貢船を遭難から救った経緯から、下地の頭職に取り立てられた。そのお礼に洲鎌与人の妻の稲石が綾錆布を織って王府に献上したとある。

綜紵^{そうこ}

機の部分の1つ。緯糸をはさむために、経糸を上下させる。

【た行】

タデ藍^{たてあい}

タデアイから作られる植物染料。

種糸^{たねいと}

緋模様のデザインに合わせて縦糸を染めていく際に、模様部分が染まらないように括るときの目印になる糸のこと。

丹^に

オレンジ色を帯びた赤色の顔料。

筒描き^{つつが}

糊で模様を描いてから染料をつけ、糊を洗い落としてから模様を染め抜く染色方法。糊を円錐形にした筒に入れてから絞り出すことから名付けられた。

ティサージ

折りたたんで携帯できるサイズの裂地で、2種類ある。一つは「ウミナイティサージ」で、兄弟が航海に出るときに、安全を祈って姉妹が織り持たせた。もう一つは「ウムイヌティサージ」で、女性が愛する男性のために想いをこめて織った。

【な行】

縫取織^{ぬいとりざり}

平織り組織に自由に模様を構成できる織りの技法。模様をつくりたいところに、地の色とは異なる色に染めた糸を織の組織の中に入れ、余分な糸は裏面に回して切る。

糠^{ぬか}

玄米をついて精白する際にとれた種皮やはい芽の粉末。

【は行】

花織^{はなおり}

浮織りの一種。糸を浮かせて花柄や幾何学的な図柄を織り出す技法。

花綜紵^{はなそうこ}

浮き織りなどで模様を織り出すための綜紵。

幅だし

精練、漂白、染色などの工程で、収縮した布の幅や、長さをもとの幅に戻し形を整える作業。

平織

経糸と緯糸を交互に組み合わせて織る、もっとも基本的な織り方。

フクギ

琉球列島、台湾、フィリピンに自生する。琉球列島では防風樹として植えられる。幹はまっすぐ伸び、高さが20mにもなる。葉は厚く、光沢があり、深緑色をしている。果実は直径2.5～3.5cmのボール状で、熟すると黄色くなる。染織には木の皮を利用する。黄色系の色が染まる。

防染糊

糸や生地に染料が付かないように保護するための糊。

【ま行】

真芯

経糸の拵柄の中心となるところ。または経糸の拵柄の中心を揃えて束ねること。

御絵図

王府時代における租税のひとつに上布や芭蕉布などを納める貢布の制度があった。貢布を織る際、王府がとくに模様を指示するために作った図案。

紋織

経糸と緯糸が交差する織り方。織り目が斜めに並んでおり、織りの密度が高くしっかりしてやわらかい。

【や行】

ヤマモモ(ムムギー)

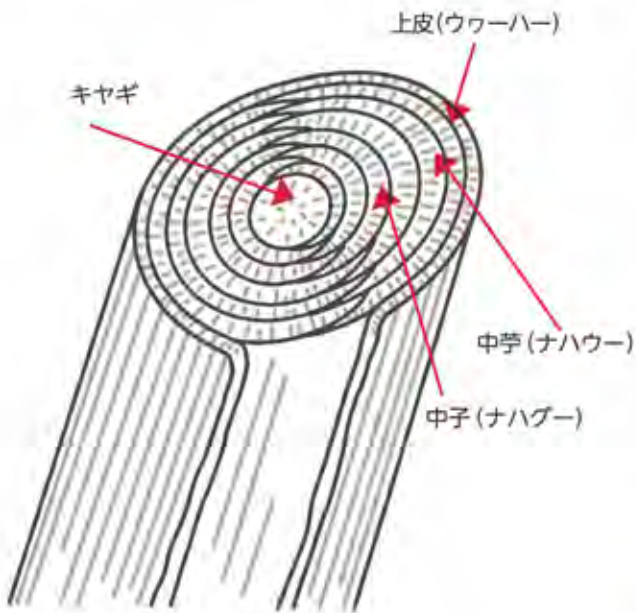
関東南部から琉球列島に育成し、朝鮮南部、台湾、中国にも分布する。幹は直立して枝が多く、葉はかたくて細い。沖縄では1月頃に黄褐色の穂のような花が咲く。花は小さく包まれており、実は1～2cmの球形で、赤みを帯びた濃い紫色となっている。皮を細かく砕いて染料として用いる。茶や焦げ茶の色が染まる。

予洗い

織り上がった反物を精練する前に、汚れや織り滲みをとるためにタワシを使い石鹼で洗う。

葉鞘

葉の付け根が鞘状の(筒状)となり、茎を包んだ部分。



【5行】

琉球藍

キツネノマゴ科のリュウキュウアイから作られる植物染料。沖縄で昔から使われてきた染料で、県外で多く使われるタデ藍とは原料となる植物も染料のつくり方も異なる。

リュウキュウアイ

リュウキュウアイはキツネノマゴ科の多年草、高さは50～80cm、やや肉厚の葉を持つ。九州南部、琉球列島、台湾からインドシナ半島にかけて分布する。日本で一般的なアイであるタデアイと品種が異なっている。沖縄県下では琉球国時代よりリュウキュウアイから作った藍を使っていた。リュウキュウアイは夏、枝の先に紫の花をつける。夏から秋にかけて茎と葉を刈り取り、泥状の藍を製造する。

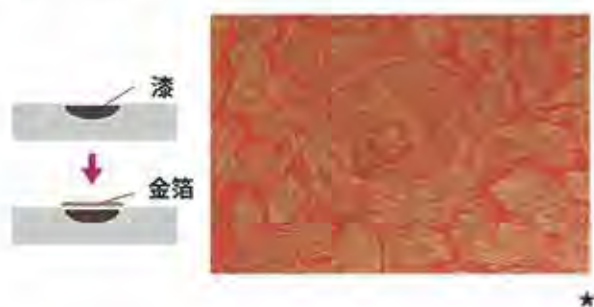
紹織

経糸を緯糸に搦(から)ませて織る搦織(からみおり)と平織、綾織などを組み合わせて、幾何学模様などを織る技法。

琉球漆器の技法

沈金

中国で14世紀ころに考案された、漆塗りの面に文様を籐彫りし、その溝の中に漆を摺りこみ、金箔や銀箔をあてて溝の中に密着させて文様を表す技法で、15世紀にはすでに琉球に伝わっていたと考えられている。



★

箔絵

中国で考案された、漆で文様を描いて箔を貼り、その上にぼかしや黒漆の線描、山・岩のひだなどを出したり、金箔を方形やひし形などに切ったりして幾何学文様を施した技法。籠球には16世紀ころにはすでに伝わっていて、高度な技法が確立されていた。



★

堆錦

漆にさまざまな顔料を混ぜて彩漆をつくり、金槌で打って適当な硬さの餅(堆錦餅)を作る。これをさらに薄く延ばして型押し、刀で様々な文様の形を切り取って漆器の面に貼り付けた琉球漆器特有の加飾法。立体的な彫刻やレリフにも使用されている。もともと中国で用いられていた堆錦の技法に琉球で新しい工夫を加えたものと考えられている。



★

螺鈿

中国や日本琉球・韓国・タイ・ベトナムなどアジアの地域に伝わるもの。いろいろな種類の貝殻を適当な薄さに摺り、平らにしたものを文様の形に切って漆の面や木地、金属面などにはめ込んだり貼り付けたりしたあと漆を塗って研ぎだす技法。



(写真提供：浦添市美術館)

(★写真提供：沖縄県立博物館・美術館)

民俗文化の用語集

【あ行】

アンガマ

八重山諸島に伝わる旧盆や節祭で芸能を演じる集団のこと。ソーロンアンガマは、旧盆に家々をまわって念仏歌を歌い、巻踊りを演じ、祖先を供養する集団である。シチアンガマは、西表島の祖納・星立(干立)のシチ(節祭)で、豊穰を招くユークイ(世乞い)の踊りを行う集団である。

イルチャヨー

伊是名村で、旧暦8月11日の昼に行われる行事で、4つの字の神人全員で、神アサギや拝所で祈願や踊りを行う。イルチャとは、茅葺き屋根の頂上を指し、神はイルチャに宿り現れるとされている。

ウシデーク

沖縄諸島の農漁村で行われるシヌグやウンジャミの後で、女性のみで踊られる祭祀舞踊。

ウンザミ(海神祭)

海の彼方にあると信じられているニライカナイから神を迎え、豊作や人々の健康・安全、村の繁栄などを予祝(前もって祝う)行事。ウンガミ、ウンジャミとも呼ばれる。

【か行】

かみやく 神役、カミンチュ(神人)

神人は、各地域の方言でカミンチュやハミンチュなど呼ばれ、村落祭祀を執り行う人たちのことである。神役はとくに神人の役職を指す場合の用語として用いられる。神人には女性神人と男性神人がいて、女性神人の方が儀礼上の地位が高い。最高位の女性神人はノロと呼ばれる。

カヤ(茅)

ススキやヨシなどの丈の高いイネ科植物のこと。屋根を葺くのに用いる。

きょうげん 狂言、キョングン(狂言)

日本の古典芸能の一つで、笑いを通して表現するせりふ劇。沖縄の民俗芸能にも演目のジャンルとして取り入れられている。八重山諸島ではキョングンと呼ばれ、広く演劇や芸能を指す。その内容は、豊穰や子孫繁栄などを予祝・祈願するものが大部分である。笑し狂言は、笑いをテーマにした娯楽的な内容となっている。

クール(紅露蔓)

台湾、八重山諸島、中国南部、マレー半島、その他東インド地方に分布し、山野に自生する植物でソメモノイモとも呼ばれる。根を薄く切って煮出し、茶系の色を染める染料として用いる。

クサティイシ(腰当石)

クサティ(腰当)は腰当ての意味で、抛りどころとなるものとして置かれている石を指している。仲田の神アサギにみられるが、伊是名島の他のアサギにはなく、諸見の神アサギでは3本並びの中央の柱を腰当て柱と呼んでいる。この腰当てとされる場所には重要な神役が座るところでもある。

感元

離島に置かれた首里王府の出先機関(役所)

コー(籠)

亡くなった人の遺体を家から墓まで運ぶ家の形をした朱塗りの葬具(葬儀で使用する道具)。一般にガンと呼ばれるが、地域によってコーやゴーなどとも呼ばれる。

コシキ(甑)

穀物や豆などを蒸すための道具で、大鍋の上にのせて用いる。現在の蒸籠(せいり)にあたる。

【さ行】

サグン^{かみやしこ}神屋敷

八月踊りの時のみ拝む場所。昔、ここで亀をひっくり返し、海へ向かって拝んでいたという。そこから海へ向かって拝むのは、海の神に魚介の豊穰を祈ったからであろうと考えられている。

三月ウマチー^{さんげつ}(麦大祭)

麦の収穫を感謝する祭り。琉球国時代は、農耕儀礼の中で最も重要な祭祀の一つとされたが、現在は麦作の衰退から行われることが少なくなった。

シツティ(節祭)

1年の節目のことで、宮古・八重山諸島で、収穫の感謝と来る年の豊作を祈願する年替わりの年中行事(正月)の儀礼。

シティガン(結願祭)

八重山諸島で旧暦8月に行われる豊作を感謝する祭祀。年間の祈願を締めくくり願を解くという意味もあり、「結願祭」と表記される。複数の御嶽で祈願を行った後、集落の人々が集まって様々な芸能が奉納される。

シヌグ

収穫を終え、次の新しい農作を始める前に行われる祭り。災厄を祓って、これからの1年間の幸せや豊作を予祝(前もって祝う)するために様々な祭祀や儀礼が行われる。

どの地域のシヌグでも、必ず祓いの行事がある。伊是名では、悪魔祓いとして、男の子10人程度を忠臣として、伊是名城跡内にある御嶽や集落内の拝所、旧家などを練り歩き、邪気を祓う。

地機、高機

布を織るための道具。地機は、織り手が地面や床に低く座って織る手織り機で、足で引いたり緩めたりしてよこ糸を通す作業を行う。高機は、地機より背が高く、腰かけて踏木を踏むことで緯糸を通すことができ、以前よりも楽に作業ができるようになった。高機が登場したことにより、地機は使われなくなっていった。

祝福芸

祝福や祝いの言葉などを内容とする芸能のこと。

畳句

同一の句を重ねて用いる手法。

寒水川芝居

沖縄県設置後の1892(明治25)年頃、職を失った首里士族たちによって、首里寒水川村(那覇市首里寒川町)に建てられた芝居小屋。

【た行】

ダートゥーダー

小浜島の結願祭において、高い鼻の黒い仮面をかぶり、4人の踊り手で踊られる芸能。八重山諸島の中でも他の島々には類例のない独特な民俗芸能で、大正年間の頃まで島の結願祭で演じられていた。その後途絶えていたが、本土復帰前後から演じられるようになった。その歌舞は、修験道文化の流れを引いた大和系の民俗芸能とも考えられている。

チカドゥイ(束取)

稲の豊作感謝と、6月と7月に寄ってくるスクー(アイゴの稚魚)の豊漁祈願を行う祭祀。伊是名村内の4つの神アサギをまわって行われる。

ツカサ(司)、ツカサンマ

宮古・八重山諸島で村落祭祀を執り行う最高位の女性神人のこと。基本的にツカサは村落に1名だが、村落内の複数の御嶽ごとに祭祀を担当するツカサがいることもある。

ティルクグチ

伊是名村で、旧暦8月11日に行われる豊作感謝と予祝(前もって祝う)の行事。神人たちが、来訪神のことばとされるティルクグチを唱えながら、村落内の各拝所から家々をまわる。午後には、イルチャヨーが行われる。

頭韻法

連続する単語が同じ音の子音または文字で始まる手法。

土間

屋内で床板を張らず、地面のままになっているところ。

鳥刺し舞

長い竹棹の先に鳥もちを付けて、それを投げ上げて小鳥を捕獲した鳥刺しの様子を踊るもの。

【な行】

ニガミ、ニーガン(根神)

沖縄本島や周辺離島で、村の草分けの家(ニーヤ；根屋)やその一門から選出される女性の神役。ニガミとかニーガンなどと呼ばれる。

人頭税

近世の沖縄の宮古・八重山諸島で行われていた人に税金をかける制度。米だけではなく、上布(織物)で税を納めた。1880年代、農民を苦しめた人頭税の廃止運動が宮古島で始まり、1903年に正式に廃止された。

ヌルドゥンチ(ヌンドゥルチ)

ノロの住む屋敷のこと。現在では、住まいとして使用されることはほとんどない。ヌルドゥンチ(ヌンドゥルチ)には、代々のノロの位牌とヒヌカン(火の神)が祀られており、祭場としてのみ使用されることが多い。

軒

屋根の下端のことで、建物の壁から張り出した部分を指す。風雨や日光をよける役割がある。

ノロ(ヌル)

奄美・沖縄諸島で村落祭祀を執り行う最高位の女性神人のこと。ヌルとも呼ばれる。根神や他の神役たちを執りまとめて、祭りを執り仕切る。琉球国時代は王府から任命され、土地も与えられた。中には複数の村の祭祀を執り行うノロもいる。

【は行】

拝所はいじよ

御嶽や祭場、井泉など、祈願し拝む場所を総称して用いられる。

パチカイ

パーリャ舟を漕いだ男性が、馬に見立てた櫓にまたがり口上を述べるもの。カピラハヤチカイは、王府からの役人の出迎えをするために、川平から早馬で石垣在役人詰め所の仮屋(宿舎)まで報告する早使人を題材に狂言に仕立てたもの。

春駒はるこま

新年に家々を巡る門付芸のひとつ。木で作った馬の首形を手に持ち、また胴の前後に首と尾をつけて、三味線・太鼓などで囃しつつ、祝言の歌を歌い、舞う。

【ま行】

巻踊りまきおどり

村落祭祀の中で行われる民俗芸能で、御嶽の庭や村の広場で人々が円を作って踊る。

蓑みの

茅などを編んで作った雨具で、マントのように肩にはおって用いる。

ミルク(弥勒)

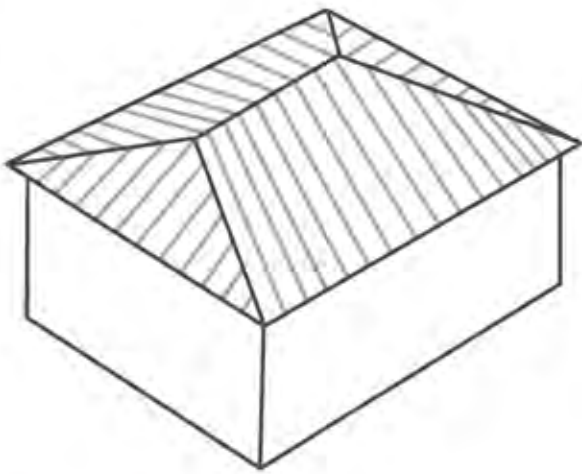
釈迦滅後に弥勒菩薩がこの世に降り人々を救うという仏教信仰が、沖縄に古くからある来訪神信仰と結びついたと考えられる。

沖縄本島や八重山各地で、豊年祭や節などに、ミルクと呼ぶ弥勒が来訪神として現れ、豊年をもたらすとされている。

【や行】

よせむらつき 寄棟造り

屋根の頂部の両端から四方に棟（2つの屋根面が接する部分）が下りる形式の屋根。屋根面は、台形と三角形が2つずつとなる。



【ら行】

ろくがつ 六月ウマチー（稲大祭）

稲の収穫を感謝する祭り。琉球国時代は、農耕儀礼の中で最も重要な祭祀の一つとされた。

